

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひまわりきっず		
○保護者評価実施期間	令和6年11月15日	～	令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和6年11月15日	～	令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間が友好的であり、必要な情報のコミュニケーションがとれている。	その日にあつたできごとや日々の小さな発見を記録に残し、職員間で共有できている。 コミュニケーションが取れているため、それぞれの動きをカバーできている。 管理者が面談を通して、職員が今後どんなことをやっていきたいのか希望を聞いている。	現在できている記録の情報共有の継続をし、職員間でコミュニケーションを図る。  よりよい支援が利用者様にできるように職員が求めているビジョンに寄り添い、職員間で意識レベルを向上していく。
2	活動や遊びを通して様々な機会に触れることができるように支援している。	活動カレンダーを作成し、様々な職員が担当をもつことで日々の活動が固定化しないようにしている。 個別活動では、個別支援計画に沿って、苦手なことが伸ばせるように支援している。 音楽療法やダンスをなど外部の先生を交えて活動ができている。	利用者様が楽しい等いろんな感情がもてるように今後も様々な活動を計画する。  利用者様が好みそうな物や活動を日々の関わりから発見できるように支援する。
3	状況に合わせて臨機応変に利用者様の部屋分け、職員の担当制を変えている。	利用者様の状況に合わせて部屋を分けて過ごし、怪我の防止に努めている。 当日いる職員の部屋割りをして、担当制にしている。	当日の利用者様の特性や職員の勤務状況に応じて割り振りを継続し、安全に過ごせる場を提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者様の人数に対して、職員が手薄になってしまっている。	送迎や排泄介助、おやつ介助等が重なることで、人手が薄くなってしまう。 さらに、利用者様の特性に応じて介助ができる職員が限られてしまう場合に手薄になってしまう。	引き続き求人募集をし、利用者様が安心安全に通うことができるように努める。  職員全体で利用者様の特性を把握し、支援をする。
2	強度行動障害の利用者様に対しての空間づくりに苦戦している。	様々なものが刺激になってしまい、利用者様の視界に入ってしまう。	現在、視覚に入らない、刺激にならないようなスペース作りが有効であるため、それらの設備の継続と、物に対しては何か必要なのかを再分別し、快適な環境で過ごせるように支援する。 利用者様が手持無沙汰にならないように、本人の興味の示すものを示したり、手作りの個別課題にて集中力を高める活動をしているため、継続する。
3	職員の意識レベルに差が生じている。	経験不足や勉強不足から職員間で障害特性の把握に差が生じてしまっている。	現在行っているパソコンによる外部講師の研修や、強度行動障害の基礎研修を受講することで資格取得に努め、基礎部分からのレベル向上に努める。